

類義語「急に」「突然」の違いについて

ー『現代日本語書き言葉均衡コーパス』と新聞コーパスを 資料としてー

趙 恩 英 *

(e-mail: obasang122000@yahoo.co.jp)

目 次

- 1. はじめに
 - 2. 本研究の検討項目
 - 3. 調査の結果および考察
 - 3.1 調査データ
 - 3.2 結果および考察
 - 3.2.1 『毎日新聞』と『書籍』における「急に」「突然」の出現傾向
 - 3.2.2 「急に」「突然」と共起する動詞の共通点
 - 3.2.3 特徴語からみた「急に」「突然」の相違点
 - 4. 結果と今後の課題
-

1. はじめに

類義語「急に」「突然」は、これまで意味の観点で検討した国広(1982)と浅野(1982)、認知言語学の観点で検討した李(2006)、辞書の用例と作例で作成したアンケートを分析した佐治(1998)により、類義語として取り上げられ検討されてきた。これらの殆どが研究者の直観に頼った内省での検討で、数量的に両者の出現傾向を中心に検討したものには新聞データを用いた趙(2012)などがある。

趙(2012)では、「急に」「突然」について、毎日新聞データ95、96、97年の3年分を用いて分析を行った。97年の場合、「急に」が417例、「突然」が1347例でばらつき

* 首都大学東京大学院、人文科学研究科、博士後期課程

があったため、用例の均衡性を考え、3年分のデータから1000例ずつ用例を抽出し分析を行ったが、明確にすべき課題が二点残っていると思われる。

まず、両副詞の97年の出現傾向が他の年度と似ている傾向であるのか、それとも97年度のみ出現傾向に過ぎないのかという点である。他の年度の両副詞の出現傾向が97年のように大差があるならば、これは何を意味するのか考える必要もある。

もう一点は、新聞データと異なるデータではどのような出現傾向があるのかという点である。これまでの先行研究には小説などの用例を用いて検討したものはあるものの、計量的な観点で分析した研究は管見ではない¹⁾。新聞データ以外のデータにおいて、両副詞の出現傾向が新聞データでの出現傾向と似ているならば、両副詞はデータによる違いがない類義語であると言え、出現傾向に大差があるならば、両副詞はデータによる違いがある類義語であると言えるだろう。

そこで、本稿では、「急に」「突然」について、新聞データにおける年度別の出現傾向の違いについて、また、新聞データと異なるデータ(『現代日本語書き言葉均衡コーパス』)を用いて出現傾向を検討し、新聞データの出現傾向と比較し、データによる両副詞の出現傾向と『現代日本語書き言葉均衡コーパス』での両副詞の出現傾向の違いを明らかにすることを目的とする。

2. 本研究の検討項目

本稿では、類義語の違いを明らかにするために、電子資料である『現代日本語書き言葉均衡コーパス(以下、BCCWJと称する)』を用いる²⁾。田野村(2000)によれば、「遺漏のない精密な意味記述を目指すのであれば、個人差を伴いがちな微妙な問題に研究者個人の語感で独断的な判断を下す危険を避けるためにも、広範囲の用例の観察・分析が不可欠となる。(省略)意味研究の分野においても、電子資料を利用したさまざまな事例研究を通じて、従来よりも精度の高い分析・記述が達成される」と電子資料の有益性について述べており、本稿は電子資料を用いて従来より精度の高い分析を目指す³⁾。また、趙(2012)で新聞データを用い、本稿でBCCWJを用いる理由は、田野村(1995)が言及している「語句の用法や頻度は資料の種類によって異なる可能性があるが、そのような各種の資料における統計をどのように合算すれば日本語の“平均像”が得られると言えるのかはき

1) 江雯薰(2008)は、小説の用例から「とつぜん」は480例、「とつぜん」は66例を用いて分析した。李沢熊(2006)は小説とインターネット上の用例を挙げているが、抽出された総頻度数については言及していない。

2) BCCWJ (Corpus of Contemporary Written Japanese)

3) 「意味分析と電子資料—副詞「よほど」の分析を例に」(田野村忠温2000: p.223)

わめて難しい問題である。特に根拠のないままにブレンドした資料を使うよりも、むしろ各種ごとの異同を見るという方法の方が正確な知見をもたらす可能性もある」という記述から新聞データと性質の違うデータであるBCCWJを用いて検討を行う⁴⁾。

また、新聞データの年度別の出現傾向を検討するために、『CD毎日新聞データ(以下『毎日新聞』と称する)』を用いる。検討項目は下記の通りである。②における分析方法は、類義語の意味分析のための新たな試みである。

- ①『毎日新聞』と違うデータでの「急に」「突然」の出現傾向を検討する。
- ②「急に」「突然」の意味用法の違いについて検討する⁵⁾。

3. 調査の結果および考察

3. 1 調査データ

「急に」「突然」の出現傾向を検討するため、『CD毎日新聞データ集(91年、93年、95年、97年)』とBCCWJを用いる⁶⁾。BCCWJの用例の検索は「文字列検索」で行った。その結果、「急に」が4700例、「突然」が5311例抽出された。「突然」の5311例は、「突然死」「突然変異」のように名詞で使われているもの1256例を除いた数である。また、BCCWJには『書籍』『知恵袋』『ブログ』『百書』『教科書』『国会会議録』『新聞』『雑誌』など様々なサブコーパスが含まれている。出現傾向を検討するにはサブコーパスのいくつかを用い、両副詞の相違点については『書籍』を用いる⁷⁾。さらに、『新聞』との出現傾向と比較するため、『書籍』のうち各1000例ずつランダムで用例を抽出して数を揃えた⁸⁾。

4) 「パソコン利用の現状と課題」(田野村忠温1995:p.55)

5) 趙恩英(2012)で指摘した「急に」の現れる事態は連続する事態が多く、「突然」の現れる事態は一回にとどまる事態が多いということ以外、両副詞の意味用法の違いと言える特徴はどんなものがあるのか検討する。

6) 用例は、『CD毎日新聞データ集97』(日外アソシエーツ)から抽出した。本稿で用いた『CD毎日新聞データ集』は、首都大学東京大学院日本語教育学教室が、毎日新聞社と交わした利用許諾契約・覚え書き書に基づき使用したものである。BCCWJは2011年8月に国立国語研究所によって公開された「中納言」を利用した。「中納言」とは、BCCWJをオンライン検索できるツールである。

7) サブコーパスそれぞれの出現頻度は、『書籍』には「急に」が3425例、「突然」が3991例、『知恵袋』には「急に」が592例、「突然」が502例、『ブログ』には「急に」が415例、「突然」が450例、『百書』には「急に」が6例、「突然」が8例、『教科書』には「急に」が18例、「突然」が11例、『国会会議録』には「急に」が60例、「突然」が49例、『韻文』には「急に」が10例、「突然」が8例、『新聞』には「急に」が14例、「突然」が59例、『雑誌』には「急に」が134例、「突然」が195例、『広報誌』には「急に」が26例、「突然」が38例現れた。

3. 2 結果及び考察

3. 2. 1 『毎日新聞』と『書籍』における「急に」「突然」の出現傾向

まず、『毎日新聞』97年において、「突然」が「急に」の約3倍出現したことについて考えてみる。97年の出現傾向はこの年度の限りで97年の出現傾向の特徴であると言えるのか、それとも他の年度も似ている出現傾向が見られるのかを検討した。その結果、表1のような出現傾向が見られた。

表1 『毎日新聞』年度別出現頻度

	91年	93年	95年	97年
急に	279	286	340	417
突然	837	927	1013	1347

表1を見ると「急に」より「突然」の出現頻度が高く、「突然」の方が「急に」の約3倍であった。この結果から「急に」より「突然」の方が出現頻度が高いのは、97年のみの出現傾向の特徴ではなく、90年代における特徴であることが分かる。

BCCWJサブコーパスの『新聞』の項目を見ると、出現頻度は非常に低いものの、両副詞の出現傾向は、「急に」が14例、「突然」が59例で「突然」が「急に」の約4倍で『毎日新聞』での出現傾向と似ていると言えそうだ。BCCWJの『新聞』のデータは、2001年から2005年の5年分のもので、90年代と2001からの5年間には、大きな違いはないことが分かる。一方、『毎日新聞』『新聞』と違うデータである『書籍』『雑誌』での出現傾向を見ると、『書籍』の場合、「急に」が3425例、「突然」が3991例抽出され、『雑誌』の場合、「急に」が134例、「突然」が195例で「急に」よりやや「突然」の出現頻度が高いものの、『毎日新聞』『新聞』での出現頻度のような差は見られない。

『毎日新聞』『新聞』において、「突然」が「急に」より出現頻度が3.4倍高いことは、単なる新聞記事の特徴、つまり、文体の差による結果ではないかと思われる。伊藤(2004)は、新聞データについて、日本語の文書としては、かなり特殊部分に入り、事実だけを伝える傾向が強いので、センテンスの骨格となる名詞と動詞が多いが、その一方、形

8)『書籍(語数)』には「0 総記(772760)」「1 哲学(1507721)」「2 歴史(2520070)」「3 社会科学(7359793)」「4 自然科学(2701476)」「5 施術・工学(2342557)」「6 産業(1234687)」「7 芸術・美術(1708758)」「8 言語(492975)」「9 文学(6802589)」「分類なし(1108893)」というジャンルが含まれている。出版年度は、2001年から2005年までの語数である。また、『書籍』の「急に」「突然」の出現頻度の詳細(())の中の前者は「急に」の頻度、後者は「突然」の頻度は、「0 総記(51例・65例)」「1 哲学(124例・173例)」「2 歴史(166例・297例)」「3 社会科学(263例・464例)」「4 自然科学(191例・216例)」「5 施術・工学(97例・88例)」「6 産業(60例・69例)」「7 芸術・美術(124例・212例)」「8 言語(24例・32例)」「9 文学(2194例・2278例)」「分類なし(131例・97例)」である。

容詞や副詞のような修飾成分は少ない、と述べている⁹⁾。修飾成分である副詞が少なく、事実だけを伝える傾向が強い新聞記事の文章を考えると、「急に」より「突然」の方がある事実だけを伝える際により相応しく、ある事件や事故、情報の伝達に使われそうな表現（「～が現れた」「～が消えた」「～が起きた」「～が出た」など）に多く現れる傾向がある、データによる違いが出る類義語であると言える。

また、書き言葉と話し言葉の中間的性格を持つものと位置づけられる『国会会議録』においては、「急に」が60例、「突然」が49例で「急に」の出現がやや高かった¹⁰⁾。この結果から、「急に」「突然」の出現傾向は、書き言葉と話し言葉というスタイルにより、出現傾向に違いがあると推測される¹¹⁾。

では、『毎日新聞』『書籍』において、「急に」「突然」の出現は、「地の文」と「会話文」でどう異なっているのか検討する。

「会話文」の認定は、(1)のように、“「”“””に囲まれている文の中、前後の文脈から会話だと認定できるもの、「話す」「語る」「指摘する」などがついている直接引用文、“「”“””はないものの、前後の文脈で会話であるもの、また、対談を「会話文」として認定した。

- (1)「だって、わたしが妊娠してたときには関心なかったくせに、急に興味を示すから」弥生がそう言うと、大樹は苦笑いをした。
(『おいしい水』)

表2は『書籍』と『毎日新聞』における「地の文」「会話文」での出現頻度をまとめたものである。

表2 「地の文」「会話文」での出現頻度

	『書籍』		『毎日新聞』	
	急に	突然	急に	突然
地の文	875	945	761	885
会話文	125	55	239	115
合計	1000	1000	1000	1000

表2から、『書籍』『毎日新聞』において、「地の文」と「会話文」での両副詞の出現傾向に大きな違いは見られず、「突然」より「急に」の方が約2倍高かった。異なる

9) 『計量言語学入門』(伊藤雅光2004: p.41)

10) 松田謙二郎(2004)は「国会会議録」について、「字句の整理を経た会議録は、言い誤り、冗長性、繰り返し、語順の乱れなどといった自然談話の持つ大きな特徴をいくつか失っている。また、国会中継を見る限り、原稿を質問・答弁で原稿や資料を読むことも多い。当然これを自然談話とはみなせない。結局のところ、口語的特徴も多分に残しているが、書き言葉と話し言葉の中間的性格を持つものと位置づけるのが正しいと思われる。」と述べている。(松田謙二郎2004:p.23)

11) この点については別稿で述べたい。

データでも「突然」と比べ、高い頻度で「急に」は「会話文」に現れることが分かる。

次に、『書籍』での「急に」「突然」の出現傾向について検討する。

『書籍』に現れる「急に」「突然」の特徴を見るために、両副詞と共に共起する動詞について検討するが、『毎日新聞』での共起する動詞と比較するため、『書籍』に現れる両副詞の出現数を揃え、ランダムで1000例ずつ抽出した。表3は、『書籍』における両副詞と共に共起する動詞を上位10位までまとめたもので、表3-1は、参照データとして『毎日新聞』における両副詞と共に共起する動詞をまとめたものである¹²⁾。

表3と表3-1から、「急に」「突然」と共起する動詞は、データの種類と関係なく共通のものが多く、特に、データ別に出現頻度は違っても、1, 2位に出現の多い動詞は「する」「なる」で同じであることが言える¹³⁾。

表3 『書籍』における「急に」「突然」と共起する動詞

順位	急に		突然	
	動詞	頻度	動詞	頻度
1	なる	262	する	144
2	する	97	なる	71
3	変わる	26	現れる	41
4	言う	23	言う	39
5	出る	15	やってくる	19
6	思い出す	13	ある	16
7	感じる	12	来る	15
8	変える・増える	11	襲う・思い出す・ 出る	13
9	ある	10	上げる	12
10	覚える	9	消える・叫ぶ	11

12) 表3-1は、趙恩英(2012)の198ページの表1「共起する動詞」をそのまま引用した。

13) 『書籍』において、「急に」「突然」と共起する述語が省略されたものは、「急に」が19例、「突然」が9例であった。「急に」「突然」と共起する「なる」「する」において、「なる」の前に前接する語については本稿では検討しない。『新聞』にける「急に」「突然」と共起する「なる」「する」の前接の語の検討については趙恩英(2012)を参照。

表 3 - 1 『毎日新聞』における「急に」「突然」と共起する動詞

順位	急に		突然	
	動詞	頻度	動詞	頻度
1	なる	288	する	255
2	する	114	なる	85
3	増える	41	現れる	27
4	変わる	27	倒れる	24
5	言う	22	言う	23
6	出る	20	ある	20
7	変える	15	襲う	17
8	立つ	12	失う・出る	14
9	減る・思い出す・ 止まる・失う・上がる	8	起きる・消える	10
10	感じる	6	入る・変わる・ 崩れる	9

3. 2. 2 「急に」「突然」と共起する動詞の共通点

『書籍』『毎日新聞』において「急に」「突然」と共起する高頻度の動詞は似ているがここで検討すべき点がある。それは、表 3 と表 3 -1 の動詞は、「急に」「突然」とよく共起するものではあるが、同時に、その他の(両副詞が出現しない)文においてもよく使われる(使用頻度の高い)動詞の可能性もある。「急に」「突然」と共起する動詞の特徴を見るためには、一般的に多く使われる頻度の高い動詞を除き、両副詞と共起する特徴的な動詞のみを抽出する必要がある。『書籍』における「急に」「突然」と共起する動詞から、よく使われる頻度の高い動詞を除いた両副詞と共起する動詞を、特徴的な動詞とし、これらの動詞を特徴語とする。特徴語という用語は、田中 (1978) の記述から借りた概念である。

高頻度群というのは、基本的な語を含むと同時に、他方において、その調査対象独特の語を含むという、二つの性格を持っている。頻度 (使用率) に基づいて基本的な語群を選定していく場合には、高頻度語群から、なるべく後者、すなわち、その調査対象に独特な語が集まるという性格を捨象していくわけだが、逆に、調査対象の語彙の特徴を捉える場合には、高頻度語群から、基本的な語をふるい落とす操作をすればいい。～ (省略) ～各種文献の語彙調査から得られた高頻度語群の中から、どんな語彙調査においても常に高頻度で現れる、いわば無性格な基本語群をふるい落として、それぞれの文献に特有な語を抽出する。(田中章夫(1978)pp.62-63)

「急に」「突然」と共起する動詞の特徴語を抽出する手順は、『国立国語研究所言語処理データ集7 現代雑誌九十種の用語用字 全語彙・表記』を用い、「急に」「突然」と共起する動詞のなかから、頻度順(度数)1,000位に入る語(基本語と称する)を除き、基本語に入らない動詞を抽出した¹⁴⁾。表4は、基本語と特徴語のデータである。

表4 基本語と特徴語のデータ

	急に		突然	
	異なり語数	述べ語数	異なり語数	述べ語数
基本語	82	650	96	584
特徴語	218	331	237	407

その結果、「急に」「突然」に共通に現れる特徴語として下記のようなものが抽出された。

現す(1・1)、痛む(4・1)、浮き上がる(1・1)、起きる(1・7)、襲う(4・13)、怒る(6・1)、落ち込む(2・1)、落とす(1・1)、帯びる(1・1)、思い出す(13・13)、思いつく(1・4)、思える(3・1)、抱える(1・2)、駆け出す(1・1)、切れる(2・6)、下す(1・1)、苦しむ(2・2)、曇る(1・1)、消す(1・5)、転がる(1・1)、叫ぶ(2・10)、醒める(4・1)、静まり返る(1・1)、座る(2・1)、倒れる(4・5)、抱き締める(1・1)、抱きつく(1・3)、立ち上がる(6・6)、立ち止まる(4・6)、つぐむ(2・2)、突き上げる(1・1)、届く(1・2)、止まる(4・2)、詰まる(1・1)、飛び出す(4・6)、波打つ(1・1)、逃げ出す(1・1)、逃げる(1・2)、抜ける(2・1)、のしかかる(1・1)、入り込む(1・1)、張り上げる(1・1)、低める(1・1)、引き戻す(2・2)、光る(1・1)、響く(1・2)、開く(3・5)、ひらける(3・1)、振り返る(1・1)、振り向く(2・2)、降る(2・3)、放り込む(1・2)、見つめる(1・1)、目覚める(1・2)、命じる(1・1)、やってくる(2・19)、止む(1・1)、寄せる(1・1)、呼び出す(1・1)、呼び戻す(1・1)、湧く(5・2)、割り込む(1・1)

(動詞の後の()の数字は、各副詞に現れる出現頻度である)

両副詞に共通に現れる特徴語は「起きる、襲う、やってくる」以外に出現頻度にあまり

14)『国立国語研究所言語処理データ集7 現代雑誌九十種の用語用字 全語彙・表記』は、首都大学東京大学院日本語教育学教室の所有である。表4の述べ語数の集計は「急に」が981、「突然」は991である。集計の合計が1000にならないのは、両副詞の現れる文において動詞が省略されているものをそれぞれ除いたためである。

差は見られなかったが、意味用法において違う傾向が見られるものがあった。

まず、「起きる」の場合、「急に」は(2)のように、主体の行為だが、「突然」は(3)のように、地震などの自然現象、痛みの感覚、出来事などである。

(2)それにしても早起きの苦手な自分が手のひらでも返したように急に早く起きだした事がおかしく思えた。
(『熱球児』)

(3)また、突然、夜中に大地震が起きて、逃げる閑なく死亡する人もいる。
(『寂聴生きいき帖』)

また、(4)(5)の「降る」は、普通の意味で使われる場合、「急に」のみ現れ、「突然」には、「降って湧く」のような慣用句にのみ現れた。さらに、「やってくる」は、(6)のように、人がやってくるときには「急に」「突然」両方現れたが、(7)(8)のように、ある状況や状態がやってくる際には「突然」のみ現れた。

(4)丁度一時になると、急に大雨が降りました。
(『最後の超念力』)

(5)期せずして突然店の大家から、買い取ってくれないかという話が降って湧いた。
(『Viva!live! よくぞ女に生まれけり』)

(6)～あ、ただし、今日は母親が家にいるからさあ、あんたが急にやってきたら目を回すと思うんだよ
(『バッドブラッド』)

(7)別れは突然やって来る。
(『彼女は恋を我慢できない』)

(8)ところがそうした家族の安堵感をいっきょにくつがえすような過食・拒食衝動は突然やってきて、家族を恐怖に陥れる。
(『克服できる過食症・拒食症』)

このように、「急に」「突然」に共通して現れる特徴語は「急に」の場合、基本の意味に現れやすく、「突然」は、基本の意味から拡張された、より抽象的なものに現れやすいことが分かる。

次に、「襲う」の場合、「急に」は、(9)のように、「睡魔・不安・気持ち・感じに襲われる」という人の気持ちや感覚に現れるが、「突然」は、(10)～(12)の「熊・闇・雨・自己嫌悪・既視感・恐怖・睡魔・めまい・腹痛・戦火・人に襲われる」の時に

現れ、「突然」の方が「急に」より幅広い場面に現れることが分かる。趙(2012)では、「襲う」の場合、「急に」は人の思いや感情が殆どで、「突然」は人を始め、病気や自然災害が多いと述べたが、『書籍』においては「突然」の現れる事態はもっと広範囲であることが分かる。

(9)ヤムスクロを過ぎたあたりで、急に睡魔がおそってきた。(『西アフリカ放浪』)

(10)しかし残念なことに、志をなかばにして、カムチャツカ半島クリル湖畔で突然熊に襲われて他界した。(『熊野学事始め』)

(11)突然襲った闇は、血の上った一同になよりの鎮静効果を施した。(『鍵のかかる棺』)

(12)～須磨の海岸に出て開運の禊をする源氏を、突然大暴風雨がおそう。(『源氏物語』がわかる。』)

3. 2. 3 特徴語からみた「急に」「突然」の相違点

ここでは、「急に」「突然」と共起する動詞のうち、それぞれの特徴語として現れたものについて考えてみる。特徴語は、大きく<人の行為><人の状態><人の感情・気持ち><人の知覚・認識><事態><自然>に分かれ、それぞれ下位分類される。分類の際、動詞句を見て分類の項目を判断した。例えば、(13)の「衰える」は<人の状態>の<老化・弱化>に、(14)の「衰える」は、<事態>の<消滅>に分類し、(15)の「見舞う」は<人の状態><病気・感覚>に、(16)の「見舞う」は<事態><変化>に分類した。

(13)「あなたはいい人だから、一億円差し上げます」…と、こんな夢を見たら？起こりうること・大きな出費、失敗がある。・病気になる、体力が急に衰える。・心配ごとが増える。(『あなたの夢を生かす本』)

(14)千九百八十六年十一月十五日、伊豆大島の三原山の山頂火口で噴火が始まり、十九日には溶岩があふれ出て、地震活動は夜になって急に衰えました。(『地震は必ずくる』)

(15)夜中に寝ていて、突然、足の激痛に見舞われて飛び起きました。(『たくさんの愛をありがとう』)

(16)裕福な家庭であったが、三郎助が八歳の時、突然不幸が見舞った。(『日本の経済の礎を創った男たちの言葉』)

まず、＜人の行為＞は、＜相手に働きかける＞＜直接対象に及ぶ＞＜空間的な移動＞＜体の動き＞＜抽象的な行為＞に下位分類される。

＜相手に働きかける＞とは、主体の話す行為により、相手に働きかけることで、(17)(18)(19)のように、「誘う、せかす、呼びかける、呼び立てる、呼び寄せる、呼び止める」という動詞が現れた。

(17)この響きが、三年ほどの仮死のあとで突然わたしに呼びかけた、と先ほど書いた。
(『陽水の快樂』)

(18)小走りに住宅の間を走りぬけたその時だった。突然、低い中年の男の声が服部を呼び止めた。
(『悪魔が舞い降りる夜』)

(19)そんなある日、突然、劉表が使者をよこし、宴会を開くから荊州に来てもらいたいと言う。
(『三国志演義』)

＜直接対象に及ぶ＞とは、主体の行為が対象に及ぶことを表し、「突然」の場合、(20)(21)のように、「蹴っ飛ばす、蹴る、刺す、叩く、捕える、投げ出す、握る、拭う、引っ掻き回る、ひっぱたく、塞ぐ、放り出す、拭く」が現れた。ここで注目すべき点は、(22)「ぬぐう」、(23)「拭く」のように、主体の行為が対象に及び、その対象に変化が現れた点である。拭う行為で涙がなくなり、拭く行為で水などがなくなるからである。このような特徴語は「急に」には現れなかった。

一方、「急に」には、「(ネクタイを) 締める、(靴を) 履く、(眼鏡を) 外す」が現れたが、これらは、行為の及ぶ対象が自分以外の人や物事である他の動詞と異なり、主体自身の身につけるものにその行為が及んでいる。このようなものは、「突然」には現れなかった。

(20)いろいろ新しい動きは出てきますが、ゴルフがサッカーになって、突然手を使わないでボールを蹴飛ばすなんてことにはなりません (笑)。(『メディアショック』)

(21)ところがちょうどその時だったんだ、誰かの手が、後から突然ぼくの肩を叩いたのは。
(『ぼくの大好きな青髭』)

(22) マーシーは突然涙をぬぐった。
(『硝煙のトランザム』)

(23)濡れた電話を突然自分のシャツで愛しげに拭き始める。
(『光とゼラチンのライブチヒ』)

＜空間的な移動＞は、主体の空間的な移動を表し、「急に」には「押し掛ける、飛び降りる、降りる」が現れ、「突然」には、「伺う、訪れる、躍り出る、駆け抜ける、駆け込む、旅立つ、飛び込む、飛び退く、投げ込まれる、なだれ込む、寄こす」が現れた。

＜体の動き＞というのは、主体の動きを表し、以下のものが現れた。

「急に」：傾く、うなだれる、遅らせる、折る、下げる、すくめる、すばめる、正す、研ぐ、殴る、覗き込む、乗り出す、離される、速まる、引っ張る、ひねる、広げる、伏す、引っ込める、もたげる

「突然」：打ちつける、躍る、搔く、崩れ落ちる、滑る、立ち上がる、つりあげる、殴りかかる、寝返る、覗く、翻す、ぶっ倒れる、附する、踏む、持ち上がる、見開く、指差す、よめく

＜抽象的な行為＞には、以下のものが現れた。

「急に」：荒げる、打ち明ける、かき集める、かしこまる、かもす、口ごもる、くramsす、組む、鎮める、騒ぎ出す、しゃべる、攻める、たたえる、ためらう、黙り込む、突き落とされる、強める、唱える、強がる、取り上げる、取り入れる、逃げる、果たす、張る、吐く、まとめられる、見違える、申し出る「突然」：訴える、打ち出す、飼う、切り出す、下す、口走る、企てる、差し出される、騒がす、騒ぐ、叱る、たたむ、伝える、つぶやく、転じる、問いかける、解く、取って替わる、怒鳴る、飛びかかる、投げ出す、狙う、乗り替える、弾き出す、外れる、塞ぐ、ふられる、発する、話しかける、振る、放り出される、休む、破る、待ち伏せる、迷う、払う、見つかる、湧き上がる。

＜人の状態＞は、＜病気・感覚＞＜老化・弱化＞に下位分類され、＜病気・感覚＞には、以下のものが現れた。

「急に」：空く、慌てる、覚める、輝かす、乾く、こぼれる、差し込む、覚める、しびれる、しばむ、調子づく、疲れる、取り戻す、なくす、寝込む、放つ、吹っ飛ぶ、乱れる、満ちる、むかつく、瘦せる、やわらげる、患う

「突然」：浮かべる、侵される、冒される、崩す、凍りつく、逆立つ、正気付く、覚ます、痞える、治る、引き起こす、震わせる、震える、見舞う

＜老化・弱化＞とは、「衰える、年老いる、老ける、弱まる」ことで「急に」のみに現れた。＜人の感情・気持ち＞とは、(24)(25)のように、主体の失望や悲しみ、懐かしさなどの気持ちが感じられるものである。「急に」には、「明るむ、抱く、嫌がる、押し寄せる、おびえる、覚える、活気付く、かられる、曇らせる、ぐらつく、強ばる、崩れる、白ける、高まる、たぎる、捉える、持ち出す、はしゃぐ、ふてくさる、ほころぶ、向ける」が現れ、「突然」には、「溢れる、陥る、輝かす、焦がれる、騒ぐ、高ぶる、煮やす、緩

む」が現れた。

(24)もっと無口なんですけど、紺野さんからの電話で、急に、はしゃぎ出して…。

(『挙動不審者』)

(25)～ある瞬間になるとなにか理由だかわからないが、突然気持ちが高ぶって、興奮状態に陥るのである。

(『5分で人を見抜く』)

<人の知覚・認識>とは、(26)(27)のように、人の頭の中に何かが浮かんだり、ひらめいたりすることを表し、「急に」には、「思い立つ、考え出す、よみがえる」が現れ、「突然」には、「浮かぶ、気づく、志す、悟る、生じる、飛び込む、ひらめく、孕ませる、芽生える、見出す」が現れた。

(26) (ベッド!) 突然、朝比奈の頭にそのことがひらめいた。

(『ベストセラー殺人事件』)

(27)と、突然、ポアロの頭になにか妙案がパッとうかんだらしかった。

(『邪悪の家』)

さらに、<事態>には、<聴覚的な変化><消滅><変化>に分かれ、<聴覚的な変化>とは、物事の音が鳴ったり、人の声が聞こえたりすることで「切り裂く、近づく、飛び込む、鳴り出す、鳴り響く、鳴る、響き渡る、洩れる」のようなものが「突然」に現れた。

<消滅>とは、「消える、帰する、消え失せる、消え去る、断ち切られる、途切れる、途絶える」などのように、物事の存在やこれまで続いていた事態が消滅することを表し、「突然」のみに現れた。

<変化>には、以下のものが現れた。

「急に」：慌てる、植え込まれる、売れ出す、売れる、うわずる、及ぶ、下がる、鎮まる、閉まる、退く、つんのめる、停まる、外される、弾む、華やぐ、はやる、広がる、膨らむ、減る、乱れる、漲る、持ち上げられる、実る、焼く、弱まる

「突然」：溢れる、移される、移る、訪れる、襲いかかる、化する、きしる、壊される、生じる、迫る、繋がる、滞る、波打つ、跳ね上がる、吹き荒れる、吹き飛ぶ、降りかかる、破られる、舞い降りる、舞い込む、巻き込まれる、紛れ込む、持ち上がる、見舞う、分かつ

<自然>には、<状態><温度・気温><動物>に分かれ、<状態>の場合「急

に」では、「衰える、かける、差し込む、透き通る、澄み渡る、濁る、晴れる、広がる、吹く、降る、降り出す、曲がる、満ちる、和らぐ、揺れる」が現れ、「突然」では、「沈む、貫く、照らす、弾ける、降りしきる、吹き出す、揺れ動く、沸き立つ、燃える、燃え上がる」が現れた。

＜温度・気温＞の場合、「下がる、冷え込む、冷える、冷やされる」のようなものが「急に」のみ現れた。

＜動物＞の場合、「急に」では、「(馬が)停まる、吠える、(鳥が)降りる」が、「突然」では「暴れる、噛む、食らいつく」が現れた。

以上、両副詞に現れたそれぞれの特徴語を挙げたが、これらをまとめたものが表5である¹⁵⁾。

表5. 「急に」「突然」と共起する特徴語の頻度

		急に	突然
人の行為	相手に働きかける		6
	直接対象に及ぶ	3	15
	空間的な移動	3	18
	体の動き	24	20
	抽象的な行為	34	47
人の状態	病気・感覚	39	18
	老化・弱化	4	
人の感情・気持ち		30	8
人の知覚・認識		8	26
事態	聴覚的な変化		17
	消滅		10
	変化	28	34
自然	状態	19	12
	温度・気温	9	
	動物	3	3

表5から、「急に」のみ現れる特徴語は、＜人の状態＞の＜老化・弱化＞と＜自然＞の＜温度・気温＞であったが、これらは、趙(2012)で述べた、「急に」には、事態の成立が連続する過程の中に現れる結果と同様の傾向である。趙(2012)では、「増える、上がる、減る」と「する」の前接に現れる語「加速、減圧、減少、減速、増殖、

15) 表5の空欄は、その項目に該当するものがないことを意味しない。空欄には基本語としてまた共通的に現れる特徴語として使われるものは入っているが、分析対象の副詞の個別的な特徴語としては使われていないことを意味する。

増大」を取り上げたが、今回の特徴語の抽出から、「年老いる、老ける、体力が衰える、力が弱まる」「気温・血圧・水温が下がる、空気が冷え込む、朝晩冷える、溶岩が冷やされる」が現れた。これらは、事態の完全な成立に至るまでの事態変化を含むものである。

一方、「突然」のみ現れた特徴語は、＜人の行為＞の＜相手に働きかける＞、＜事態＞の＜消滅＞、＜聴覚的な変化＞であった。＜消滅＞と＜聴覚的な変化＞を＜空間的な移動＞と関連させてみると、共通して言えることがある。それは、存在していた物事や人がいなくなったり、現れたりすることで、＜消滅＞においては、存在していたものがなくなることを、＜聴覚的な変化＞においては、静かな空間の中に、音や声が現れることを、＜空間的な移動＞においては、ある場所から他の場所に移動することである。＜空間的な移動＞は、元々存在していたある場所から他の場所に移るため、元の場所からはその存在がなくなるといことで、＜消滅＞と似ている意味合いを持っている考えられる。また、移った先では何もなかった場所に新しく現れるということから＜聴覚的な変化＞と似ていると思われる。このように、「突然」の特徴語は、聴覚的と空間的という感覚の面では異なるものの、その事態の変化の有様は似ていると思われる。

以上、「急に」「突然」について、両副詞と共起する動詞のうち、特徴語を中心に検討した。共起する動詞の特徴語からは、「突然」の方が「急に」より抽象的な意味などに現れやすく、意味の範囲が広がった。両副詞のそれぞれの特徴語からは、「急に」は、人の感情、人の状態の変化、自然の気温・温度の変化など、事態の成立までの過程を経たという過程性、連続性が見られた。一方、「突然」は、対象に影響を及ぼす行為、物事の聴覚的な変化、物事の消滅、空間的な移動に現れた。

4. 結論と今後の課題

BCCWJの『書籍』を用いて類義語「急に」「突然」の違いについて、両副詞と共起する動詞を中心に検討した。検討の際には、『毎日新聞』での両副詞の出現傾向と比較した。検討の結果、以下のことが明らかになった。

①『毎日新聞』における「急に」「突然」の年度別の出現傾向に大きな差は見られず、「急に」より「突然」の方が約3倍高く出現し、BCCWJの2001年から5年間を集めた『新聞』データにおいても「急に」より「突然」の方が約4倍高い。また、BCCWJの『書籍』『雑誌』における「急に」「突然」の出現傾向は、新聞データでの3,4倍の差までではないものの、「突然」の方が「急に」よりやや出現が多い。しかし、BCCWJの『国会会議録』においては、『毎日新聞』『書籍』と違って「突然」より「急に」の

方がやや高く、『毎日新聞』『書籍』における「地の文」「会話文」の出現傾向は、「急に」が「突然」より高いことから、話し言葉においては、「急に」が「突然」より多く現れることが推測される。

『毎日新聞』『書籍』における「急に」「突然」と共起する動詞の高頻度の動詞は共通のものが多い。

②「急に」「突然」と共通する動詞の特徴語において、「急に」より「突然」の方がより抽象的で広範囲に使われる。それぞれの特徴語からは、「急に」は、人の感情、人の状態の変化、自然の気温・温度の変化など、事態の成立までの変化を経たという過程性、連続性が見られる。一方、「突然」は、対象に影響を及ぼす行為、物事の聴覚的な変化、物事の消滅、空間的な移動に現れる。

類義語の検討において、従来、検討の対象は共起する動詞において高頻度語が主な対象となってきた。本稿では、その共起する動詞から高頻度語（基本語）を取り除き、抽出された特徴語を中心に検討したが、この検討の方法は、類義語の研究において初めての試みである。この方法を使い、他の時間副詞の類義語について検討しその相違を明らかにしていきたい。

今回の検討で残されている課題は、「急に」「突然」が互いに置き換えられるかどうかについての検討ができなかった部分である。今後、両副詞の特徴語を中心に置き換えテストを行い、両副詞の違いについてより細密に探していきたい。また、話し言葉における「急に」「突然」の出現傾向について検討し、書き言葉と話し言葉での両副詞の出現傾向の相違について検討していきたい。

【参考文献】

- 浅野百合子 (1982) 「イキナリ・ダシヌケニ・トツゼン・フイニ」 『ことばの意味
3 辞書に書いていないこと』 平凡社. pp.154~161
- 伊藤雅光 (2004) 『計量言語学入門』、大修館書店. p.41, pp.36~37
- 国立国語研究所25(1964) 『現代雑誌90種の用語用字』 秀英出版
- 国広哲弥 (1982) 「タチマチ・スグニ・キュウニ」 『ことばの意味 3 辞書に書いて
いないこと』 平凡社. pp.146~153
- 江 雯薰(2008) 「時間副詞に関する一考察－「とつぜん」と「ふいに」を中心に－」
『岡大国文論稿』 36号 岡山大学文学部言語国語国文学会. pp.68~58
- 田中章夫(1978) 『国語彙論』 明治書院
- 田野村忠温(1995) 「パソコン利用の現状と課題」 『日本語学』 7月臨時増刊号
第14巻 第8号 明治出版. pp.53~62
- _____ (2000) 「意味分析と電子資料－副詞「よほど」の分析を例に」 『日本
語：意味と文法の風景：国広哲弥教授古稀記念論文集』 ひつじ書房.
pp.211~224
- 趙 恩英(2012) 「類義語「急に」と「突然」に関する一考察－新聞コーパスを用いて」
『韓国日本文化学会』 韓国日本文化学会 第52輯. pp.191~209
- 松田謙二郎(2004) 「言語資料としての国会会議録検索システム」 『Theoretical and
Applied Linguistics at Kobe Shoin』 神戸松蔭女子学院大
学・短期大学学術研究会 pp.1-28
- 李 沢熊 (2006) 「時間の早さを表す副詞の意味分析」 『名古屋大学日本語・日本
文化論集』 No.14 名古屋大学留学生センター. pp.45~71

要 旨

本稿では、類義語「急に」「突然」の違いを明らかにするために、新聞データと『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を用いて、新たな分析方法で両副詞を検討した。検討の際に、趙(2012)の『毎日新聞』データにおける「急に」「突然」の出現傾向の結果と比較し、また、年度別の出現傾向について検討した。検討は、①『毎日新聞』における「急に」「突然」の年度別の出現傾向とBCCWJにおける「急に」「突然」の出現傾向、②「急に」「突然」の違いについてである。検討の結果、以下のようなことが明らかになった。

①『毎日新聞』における「急に」「突然」の年度別の出現傾向に大きな差は見られず、「急に」より「突然」の方が約3倍高く出現し、BCCWJの2001年から5年間を集めた『新聞』データにおいても「急に」より「突然」の方が約4倍高い。また、BCCWJの『書籍』『雑誌』における「急に」「突然」の出現傾向は、新聞データでの3,4倍の差まではないものの、「突然」の方が「急に」よりやや出現が多い。しかし、BCCWJの『国会会議録』においては、『毎日新聞』『書籍』と違って「突然」より「急に」の方がやや高く、『毎日新聞』『書籍』における「地の文」「会話文」の出現傾向は「急に」が「突然」より高いことから、話し言葉においては、「急に」が「突然」より多く現れることが推測される。『毎日新聞』『書籍』における「急に」「突然」と共起する動詞の高頻度の動詞は共通のものが多く、

②「急に」「突然」と共通する動詞の特徴語において、「急に」より「突然」の方がより抽象的で広範囲に使われる。それぞれの特徴語からは、「急に」は、人の感情、人の状態の変化、自然の気温・温度の変化など、事態の成立までの変化を経たという過程性、連続性が見られる。一方、「突然」は、対象に影響を及ぼす行為、物事の聴覚的な変化、物事の消滅、空間的な移動に現れる。

キーワード：「急に」、「突然」、出現傾向、『現代雑誌90種の用語用字』、特徴語

투 고 : 2012. 5. 31

1차 심사 : 2012. 6. 16

2차 심사 : 2012. 7. 7